巻頭特集 INTERVIEW

NPO四国夢中人 代表

尾崎 美恵

Ozaki Mie

相手のことを考えて、心惹く情報の発信をしなければ、人はこちらを振り向いてくれません。

四国を知ってもらうため、私にできることがあるはずだ。

主婦として3人の子育てをおこないながら、2008年には『四国夢中人』というNPOをほぼ1人で立ち上げ、その後は様々なご活動を精力的にされていますよね。

〈尾崎〉最初は漠然と「フランス人と親しくなって、何か素敵なことができたらいいな」という思いだけでした。

そこでお金も経験も何もない私は、まず「四国のことを知ってもらうためにパリに行こう」と考えました。それでいろいろ調べると、フランス人がサポートする『JAPAN EXPO』というイベントが開催されていることを知り、行ってみたのです。

するとショッキングな事実に直面しました。フランス人にとって四国は、東京、大阪、北海道、九州という存在に比べると何も知られていないエリアでした。外国人向けに発信されている日本観光のゴールデンルートからも外れていましたし、情報発信ができていないという意味では、完全に「日本じゃない存在」でした。四国は「行っても仕方がない場所」という扱いを受けていたのです。

しかし、行政などが、観光誘致や観光振興策を推進しているのではないのですか。

〈尾崎〉世界遺産もないし、興味の対象ではなかったんです。当時は「四国で一週間も滞在するくらいなら、京都や大阪に行った方が良い」という感覚でした。

高松に『四国運輸局』が「ツーリストやジョブナリストを四国に全部タダで招聘します」といっても応募者が、なかなか集まらなかったそうです。だから行政も企業も、四国観光誘致にとても消極的でした。

「それなら、私に何かできることがあるはずだ」と思い、とりあえず「JAPAN EXPOに参加してみよう」と考えました。そして「日本が大好きなフランス人が集まる場所で『日本でありながら、日本として知られていない四国』のことを紹介しよう」と思い、2008年から2011年までの4年間、フランス最大の日本イベントJAPAN EXPOに四国ブースを出展しました。

JAPAN EXPO、そしてギメ東洋美術館でのアピール。

〈ギギ〉私も2004年に普通のビジターとして参加しましたが、いろいろ大変でした。

尾崎さんは自費に近い形で参加されたそうですが、出展ブースでは毎年どのような企画内容をトライされたのでしょう。

〈尾崎〉四国が知られないのは、心を惹く情報が発信されていなかったからです。ですから、フランスの方が興味を持っていただけることを考えて考えて考え抜きました。

それで四国全域をネットワークする文化遺産『四国遍路八十八カ所の巡礼』や香川県のソウルフード『讃岐うどん』などをテーマに、様々なイベントを開催しました。

特に四国遍路については、毎年フランス人を招聘しています。日本人でさえ八十八カ所を巡る方は少ないのですが、フランス人はとても楽しそうに徒歩で巡られています。

そんな巡礼経験者が、翌年のJAPAN EXPOのブースにボランティアで参加してくださって、四国の魅力を語ったり、質問に応えたりして四国の魅力をどんどん発信してくれました。

意欲的な国際交流を推進してきた努力が実り、『フランス国立ギメ東洋美術館』で四国遍路についての講演をされたそうですね。

〈尾崎〉非常に権威のある美術館ですから、普通に「四国遍路の紹介をしたいから講演をさせてください」とお願いしても、なかなか実現にこぎつけるのは至難の業です。その上、美術館の講演テーマに添ったものでなければ許可は下りません。

そこで情報収集して『東洋のお礼文化』についての講演をするというニュースを掴んだので、四国お遍路の紹介もさせてほしいとアプローチしました。それで講演の許可をいただけたのです。ただ説明については、フランス人の方にお願いをしました。

〈ギギ〉フランス人が説明するのは、フランス人の理解と共感が得られやすいからですか。

〈尾崎〉そうです、フランス人なら自分たちの好みがわかっていますからね。日本人である私が日本文化を説明すると、詳しくなりすぎたりして、理解してもらうのがすごく難しくなると思います。

四国夢中人 HTTP://MUCHUJIN.JP

一途な思いが、EU大統領との面会を実現させた。

2012年以降、JAPAN EXPOへの出展をされなくなったのはなぜですか。また、どのような活動にシフトされたのですか。

〈尾崎〉簡単にいうと行政の支援がなくなったからです。それで、次の施策としてスポンサーを見つけて、協力してもらうことをおこないました。

そして企業や組織のご支援を得て2012年からは、日本文化に造詣の深いフランス人を日本に招聘しました。ジャーナリストの『クロード・ルブランさん』やイラストレーター『フローラン・シャブエさん』、フォトグラファーの『ダヴィッド・ミショーさん』など、様々なジャンルの第一線で活躍されている方をお招きして、お遍路体験などを通じて四国の紹介していただいたんです。

彼らに来ていただくために彼らに喜んでもらえること、いちばんやりたいことを準備するなど、大変なこともありましたが、その甲斐あって皆さんとても素晴らしい表現で四国の魅力を掘り起こしてくださいました。

〈ギギ〉それはナイスアプローチだったと思います。2011年頃までは、フランス人にとって四国は興味の対象ではありませんでしたが、最近は知名度も高くなっていますよ。四国遍路、香川のうどん、徳島の阿波踊りや鳴門、それから愛媛のしまなみ街道などに多くの人が行きたがるようになっています。

フランス人は、自分たちのオーセンティックを見つけて楽しむ人が多いですからね。今後も人気は上昇すると思いますよ。

2014年には欧州連合（EU）のファンロンパイ大統領（首脳会議の常任議長）との面会を果たされたそうですね。

〈尾崎〉きっかけは海外で活躍する欧州俳人4人を招いておこなった、2週間の四国俳句巡りでした。そして、その旅で感じたことを詠んでもらった350句を一冊の句集に仕上げたのです。

素晴らしいこの本を手にしたとき「俳句好きで知られるEUのファンロンパイ大統領に差し上げたい」と思い、その旨をしたためて手紙でEUに送ったところ、大統領秘書官からエアメールが届きました。驚いたことに「ぜひ面会したい」とのメッセージが書かれていました。そんな経緯があって、2014年の1月に面会することができました。

お目にかかると大統領はとても哲学的な方で、そこが日本の政治家との大きな違いだと感じました。哲学を持っていないと、様々な文化がひしめくヨーロッパを治めることはできないんじゃないかなとも思いましたね。

2013年に四国・松山にいらしたとき「俳句ファンの1人として松山をたいへん気に入った」というお話を伺いました。一般人である私に30分もの時間を割いていただけたことにいまも感謝しています。

〈ギギ〉なぜ俳句で四国を紹介しようと考えたのですか。

〈尾崎〉日本を紹介するためにとても良い手法だと思ったからです。

普通であれば経済効果を上げるために「有名観光地を紹介」するところですが、私はそこに興味がないんです。ただただ文化を通して『四国の魅力、日本の魅力』を伝えたい、その一心で活動をしてますから。

国際交流には、お互いが尊敬しあえる関係が大切。

尾崎さんも、ギギさんも日本の魅力発信のためにエネルギッシュな活動をされていますが、それぞれに考える日本や四国の魅力をお聞かせください。

〈尾崎〉フランスの方は「誰も知らないような場所に関心を持ち、行きたがる」。だから、海外の方にまだまだ知られていない四国は、逆にチャンスではないでしょうか。

京都や北海道にはみんな行っているから、四国なら例えば『徳島県の祖谷渓谷』など、コアな場所に関心の対象が向くはずです。今まさに「四国の時代が来た」という思いです。

〈ギギ〉去年の夏に香川と愛媛を旅したときのビデオを動画サイトにアップしたのですが、そのときにつけたタイトルが『もうひとつの違う日本』でした。食もあって、巡礼もあって、美しい景色があって、文化があって、私自身『違う日本』を感じたからです。

四国にもそういう魅力がたくさんあると思います。フランス人にはぜひ四国すべての県を堪能してほしいです。

〈尾崎〉文化交流というのは、基本的にリスペクトしあえる関係だとうまくいく。そういうベースがあると、どんどん広がっていきますが、ビジネス色が前に出ると広がりにくいですね。

旅行会社や行政のアプローチも悪くはないのですが、例えば成功事例である『JAPAN EXPO』に乗っかって「おいしいところをいただこう」的な手法では、本当の文化交流には発展しにくいと思います。

お互いが尊敬し合える企画を進めて、一度きりで終わらない関係性を深めていくことが重要ではないでしょうか。

尊敬し合う関係が大切。なるほど国際交流も人づきあいと同じなのですね。最後に今後のご予定をお聞かせください。

〈尾崎〉とっておきの予定がありますよ。香川県に豊島という人口平均年齢が80歳の島があるのですが、そこに養護学校から寄贈された花を京都大学の学生と一緒に植えるという企画をゴールデンウィークにスタートします。

我々も参加して「島全体をお花畑にしてしまおう」という楽しいプランなんですよ。ギギさんもご都合がよろしければ、ぜひいらしてください。

〈ギギ〉それはとても楽しそう。ぜひ伺いたいです。

〈尾崎〉島の皆さんは自給自足で生活していて、お店もレストランもありません。島で経済活動をしているのは自販機1個だけで、あとは何もないんです。島にお金を持ってきても、ジュースを買う以外は使えない。

そんな場所ですが、きっと魅力的な四国、美しい日本を肌で感じることができると思います。だから、外国の方にもぜひ参加していただければうれしいです。

夢と笑顔が島からあふれて、とても素晴らしい交流が生まれそうですね。本日はお忙しい中、貴重なお話の数々を本当にありがとうございました。日本とフランス、そして世界との架け橋になるご活躍をこれからも期待しております。

（おざき みえ）

1954年 愛媛県生まれ
1997年 岡山大学仏文研究科修士課程（専業主婦44歳）
2001年 岡山大学仏文研究科修士課程修了/仏語講師スタート
2002年 文科省・仏政府による仏語教員夏季研修（ツーロン市）
2003年 カナダ・ケベック州政府による仏語教員夏季研修（モントリオール市）
「中等教育における仏語の展望」京都大学 学会発表
2006年 香川大学坂出附属中学2004年–2010年フランス語講座担当
2007年 文科省・仏政府仏語教員夏季研修（ビッシー市）「四国夢中人」結成
2008年 パリ・ジャパンエキスポ・毎年出展 ～ 2011年
2009年 うどん講習会（日仏文化センター）
2010年 日本祭参加 （クレルモフェラン）
2011年 邉路講演（フランス国立ギメ東洋美術館）
2012年 日本の庭・春祭り出展（パリ市主催）、
大衆演劇公演（パリ国際大学都市）
2014年 欧州理事会議長 ファンロンパイ氏面会
（ベルギー・ブリュッセル 欧州連合本部）
2015年 邉路講演とうどん講習会（パリ日本文化会館）
2016年 「四国への誘いパリ&ブリュセル2016」
（パリ日本文化会館・在ベルギー日本大使館）

WEBサイト 四国夢中人ホームページ http://muchujin.jp/